



■搬入終了(4月12日)



於《生和糖業株式会社》

力を注いでいただけますようお願いいたします。私たちの工場では、徐々に増えてくる原料さとうきびを効率的に圧搾し、ロスを減少させるべく設備の充分な整備をし、安定操業が出来るように、頑張っています。「生和糖業糖業は、自然の恵みに感謝し
さとうきびから効率よく砂糖を作り、豊かな暮らしに貢献します。」という企業理念に則り対応して行きます。喜界島にいつまでもさとうきびが元気に育ち
喜界島のみんながいつまでも元気で過ごせるように喜界島の皆様と当社が、互いに協力し取り組んでいきましょう。

生和糖業株式会社・代表取締役社長 赤松 幹雄

◆4月・5月の主な行事予定

4月12日：搬入・圧搾終了

14日：製糖終了

5月初旬～6月初旬：チンチバックー斉防除

5月上旬：一筆調査 【全集落】



3年期：さとうきび収穫面積及び生産量の推移



【過去3年集計】

作 型 各期	夏 植			秋 植			春 植			株 出			合 計		
	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量
	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t
49期	48,606	9.646	46,887	10,893	7.701	8,389	6,821	6.426	4,383	49,652	6.241	30,987	115,972	7.816	90,646
50期	44,983	8.993	40,453	9,263	8.144	7,544	10,271	6.521	6,698	55,163	6.716	37,047	119,680	7.666	91,742
51期	39,238	8.647	33,928	12,421	7.306	9,075	11,891	5.159	6,135	61,069	5.302	32,377	124,619	6.541	81,515



農薬の適正・適期使用(減農薬)についてのお願い



ポジティブリスト制度とは

農薬のポジティブリスト制度って知っていますか??



食品衛生法の改定により平成18年5月29日より実施されています。

●この制度はすべての食品に残留農薬基準値が設定されます。

●残留農薬基準値がない農薬については、0.01ppmが基準値として設定されることになります。

「残留農薬とは、食物に残った農薬のこと。食品衛生法では農薬取締法で定義される農薬に加え飼料添加物や動物医薬品についてもその基準を超えてはならないと定められている。」

近年、食の安全・安心というのをよく耳にいたします。

弊社も、製品を出荷している親会社、商社、消費者からの問い合わせや要望により製品の残留農薬の分析データを要求され年3～4回分析を実施しております。最近では農薬の種類も5百数十種類の項目を分析していますが、今のところ数字にはでておりません。

喜界島は地下ダムもありますので農薬を適正以上使い続けると農薬の成分が土壌に蓄積されてあげくの果ては地下水の汚染にもつながりかねません。地下水が汚染されると全ての農作物に残留農薬の被害が及ぶことが必至であることは想像されます。

また、製品が残留農薬の基準値を超えた場合、製品・商品の出荷停止や回収などの措置を求められ、ひいては企業の存続にまで問題が発展する可能性もあります。

私たち一人一人が、喜界島の環境と自然を存続させるため、農薬の適正、適期使用を遵守し減農薬につとめてくださいますようお願い致します。

※ポジティブリスト制度が実施されておりますので、農薬のドリフト(飛散)にも一層の配慮が必要であります。

開発組合からのお知らせ

- 開発組合では、デトラッシャーから排出されたさとうきびのハカマを今期に限り無償にて提供しています。
- 希望される方は、65－4951(開発組合)までご連絡ください。 尚、なくなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。
- ハーベスタによるさとうきび収穫も年次毎に増え、今期は約76％に達しました。手刈の頃と比較すると堆肥が圃場から少なくなってきました。畑に堆肥を投入して地力増進を図りましょう。



開発組合受託料金表(平成22年4月改定)

耕耘受託単価(10a)		単位:円	株出管理機(10a)		単位:円
一 律		4,500	株 揃 え		2,000
チョッパー(10a)			カルチ・除草剤散布(10a)		
チョッパー		2,000	カルチ		3,000
チョッパー＋耕耘		6,500	除草剤散布		3,000
ミニトラクタ(10a)			植付受託単価(10a)		
中耕 (植付受託者及び高齢者)		3,000	植付のみ		10,000
中耕＋施肥 (")		4,000	農家苗使用植付		30,000
培土 (")		3,000	開発組合使用苗植付		40,000
培土＋施肥 (")		4,000	側枝苗植付		40,000



注
・
意

- ★入梅以降、降雨が少なく今のところ、空梅雨気味と低温のため萌芽、発育が阻害されている状況です。又、テンチバックの防除も行ないましょう。
 - ★先手の除草・管理作業で、来年の増収につなげましょう！
 - ★収穫面積も拡大されておりますが、新植(夏植え・春植え)の補植を実施し、さらに株出しの補植も行い茎数の確保に努め、収量アップを目指しましょう！
- 【生和糖業(株)喜界工場・業務部原料係】

【生和：一言コラム】

生産量941,873kg、1,000トンまであと僅か 川嶺集落 稲津 文昭さん

今期の稲津文昭さんの生産量は941,873kgの好成績で終了しました。労働力は、本人と奥さんの二人で平成12年迄はドラムで収穫していましたが翌13年に文明HC50のハーベスタを導入しました。収穫が楽になった分栽培面積も順調に増やしてきました。

ところが今から3年前、平成18／19製糖期は喜界町一円がワタアブラムシによる被害をこうむった年であり、稲津さんの圃場も例外ではなく、生産量は減となった。逆にこの年は生産量が減ったことで、製糖期に春植をする余裕が出来た。植付品種はNi23、ハリガネムシ防除にプリンスベイト剤を使用した。「今、当時を振り返ってみると春植面積の拡大とNi23を植付したことで株出面積も増加した。その甲斐あって今の春植、株出体系が定着した。」と語ってくれました。製糖も終了し一段落した今日課は、朝6時～6時30分頃、圃場を巡回しさとうきびの生育状況を観察するのが楽しみとなっています。

今後の抱負を尋ねたところ、「自分は今まで目標としてきた方がいます。今後も更に目標として、さとうきび作りを頑張っていきます。」と語ってくれました。晩酌の最中にお邪魔しましたが快く取材に応じて下さいましてありがとうございました。

今期のように減産の年に941トンの好成績を残されたのは、奥さんと二人で努力された賜物だと思われます。これからも健康に留意されまして、無理をなさらず農作業に、ご精励されますようお願い致します。



編集
後
記

昨年も今年も、低温の影響で春植、株出しの萌芽、初期生育が鈍い状態である。また、入梅したものの、まとまった雨は降っていない、まとまった雨が待ち遠しいものです。

話は平成3年までさかのぼるが、さとうきびの標語で「汗の量ちゃんと知ってるきびの出来」というフレーズがあったのを思い出した。努力した分、さとうきびはちゃんと応えてくれる。

